

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和2年8月4日(火)午前9時 57 分～午前 10 時 18 分(9階 908 会議室)

○出席委員(8名)

委 員 長	二階堂武文
副委員長	佐々木 優
委 員	高木 直人
委 員	川又 康彦
委 員	石山 波恵
委 員	阿部 亨
委 員	小松 良行
委 員	山岸 清

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

「古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査」

- (1) 委員長報告のまとめについて
- (2) その他

午前9時57分 開 議

(二階堂武文委員長) ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査を議題といたします。

まず初めに、委員長報告のまとめについてを議題といたします。

前回の委員会では、委員長報告の骨子について協議いただきました。その際いただいたご意見を踏まえ、正副委員長手元で委員長報告の素案を作成いたしました。

素案を書記に朗読させますので、その後ご意見をお伺いいたします。

(書記) 先日皆様に骨子のほうをご協議いただきまして、その後当局のほうに事実関係の確認をいたしました。そちらの関係で文言を一部修正しているところがございます。

それでは、読み上げさせていただきます。古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査、経済民生常任委員長報告案でございます。経済民生常任委員会において行いました古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査の経過並びに結果につきましてご報告申し上げます。

本市の名誉市民である古関裕而氏とその妻、金子氏をモデルとした連続テレビ小説、エールが令和2年3月30日より放送開始となり、全国的に古関氏と本市への関心が高まっております。

当委員会では、この状況を追い風として、本市の交流人口の拡大と町なかのにぎわい創出につながる施策が必要であることから、古関裕而を活かしたにぎわいの創出に関する調査を調査項目と決定し、令和元年10月より計〇回の委員会を開催いたしました。

この間、市当局から詳細な説明を聴取するとともに、古関氏の功績と古関メロディーを継承するための中核となる古関裕而記念館へ2度にわたり現地調査を実施いたしました。

また、参考人として、本市の音楽文化総合アドバイザーである三浦尚之氏を招致し、古関裕而氏を生かしたまちづくりの将来像や音楽、芸術を生かしたまちづくりがもたらす効果や魅力などについて聴取いたしました。

さらに、先進地として、音楽によるまちづくりに取り組んでいる静岡県浜松市、ジャズの力で地域活性化に取り組んでいる愛知県岡崎市、連続テレビ小説、半分、青い。放送を生かしたにぎわいの創出に取り組んでいる岐阜県恵那市への行政視察を行うなど、詳細な調査を実施いたしました。

以下、調査の結果についてご報告申し上げます。

初めに、本市が現在取り組んでいる古関裕而氏を生かしたまちづくりの現状について申し上げます。

現在本市では、令和元年に策定した古関裕而氏を生かしたまちづくりの施策案である古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーに基づき、官民協働による様々な事業が実施されております。

古関氏に触れ、親しむ取組としては、古関裕而記念館の展示リニューアルや古関氏の生涯や功績を紹介する漫画の小中学生への配布などが行われ、古関裕而メロディーバスの運行も始まりました。

また、古関裕而のまち・ふくしまのまちづくりの取組としては、本市オリジナルの古関裕而のまち福島市ロゴを作成し、ポスターやフラッグになどによるシティードレッシングが行われ、駅前通りからレンガ通りにかけては古関裕而ストリートの整備も進められております。

さらに、古関レガシーを活かした新たな文化・観光振興の取組としては、ロケツーリズムの推進やエール展の開催をはじめ、民間による音楽イベントなども開催され、古関氏にちなんだ様々なお土産品の開発も進んでおります。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大により、古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーによる取組にも大きな影響を及ぼしております。

当初4月を予定していたエール展の開催や町なか周遊バスの運行開始は6月からとなり、古関裕而記念音楽祭や古関裕而ゆかりのまちサミットについては、現在内容等を検討している状況となっております。

そうした影響下においてもエール放送による波及効果は広がりを見せ、古関裕而記念館の来館者数は、6月1日の再オープン以降、8月末までで〇人となり、昨年同時期の約〇倍の伸びとなっております。

9月以降もバスツアーの予約が相次いでおり、今後とも来館者でにぎわうものと予想されます。

次に、参考人招致により提言に関して得られた内容を申し上げます。

参考人からは、エール放送により盛り上がった古関氏や楽曲に対する機運をどのようにしてこの先50年、100年先まで続くまちづくりへとつなげていくのが重要と示されました。

参考人の説明を受け、当委員会としては、古関氏や古関氏の楽曲をきっかけに、音楽や文化を通じて子供たちに夢や希望を持ってもらうことで、次の福島市を担う人材育成に取り組んでいくことの必要性並びに市民に古関氏の功績や楽曲を伝え、語り継ぐことで福島市への愛着や誇りを持てる取組を続けることの必要性を認識したところであります。

次に、先進地の視察により提言に関して得られた内容について2点申し上げます。

1点目は、音楽文化の浸透には長い時間と長期的なビジョンが必要ということであります。

浜松市では、昭和56年から音楽によるまちづくりに取り組み、40年近く継続することで市民に音楽文化が根つき、音楽のまちを支える人材が数多く育ち、都市ブランドを形成するまでに至っております。

また、音楽によるまちづくりの方向性、将来像を示した文化振興ビジョンを基にまちづくりに取り組むことで、行政と市民、企業等が共通の目標に向かって進んでおります。

2点目は、テレビドラマ放送で得た資源の活用であります。

恵那市は、連続テレビ小説、半分、青い。放送による効果を次につなげていくため、ドラマ放送終了後もロケセットの一部を譲り受け、それを活用し、観光客の誘客を図っております。

以上の調査結果を踏まえ、古関裕而氏を生かしたまちづくりをさらに推進させるため、以下3点について提言をいたします。

1点目は、エールレガシーの積極的な活用であります。NHKとの連携をさらに深め、エールで利用したロケセットや小道具等を譲り受け、駅周辺施設などで展示するなど、放送終了後もエールを生かした観光PRを続け、町なかの回遊性向上につなげるべきであります。

また、本市ホームページで一部のロケ地情報が公開されておりますが、ロケ地情報を一覧にしたロケ地マップを作成し、観光施設などに配置することで、観光客がロケ地巡りを楽しみやすい環境づくりを進めるべきであります。

2点目は、古関裕而記念館を中心とした近隣施設や、商工団体、他自治体、他事業との連携であります。先ほど述べましたとおり、エール放送の反響により、近年例を見ない数の来館者が古関裕而記念館を訪れておりますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、一度に入館できる人数を制限しており、混雑時は1時間以上の待ち時間が発生しております。

この待ち時間を活用するため、隣接する音楽堂など近隣施設とさらなる連携を図り、施設の空きスペースを活用した展示や軽食などを取れる休憩場所を設置するなど、近隣施設が一体となり、訪れた方へのおもてなしの強化を図るべきであります。

加えて、市当局と商工団体が連携して町なか回遊のための仕組みをつくり、その情報を古関裕而記念館から発信することや、川俣町、本宮市との広域連携、金子氏のふるさとである豊橋市との交流促進も図るべきであります。

また、旅行代理店等と連携し、本市自慢の花見山や果物狩りと古関裕而記念館をセットにしたパッケージツアーの促進を図るべきであります。

本市では、春は花見山の花観光、6月初旬頃からはサクランボを皮切りに、モモ、ナシ、ブドウ、そして初冬のリンゴまで季節を追って様々な果物を楽しむことができ、市内外から多くの方が訪れます。

新たに整備されたバス駐車場を活用してパッケージツアーを促進することで、より多くの方に気軽に古関裕而記念館を訪れる機会を提供することができます。

3点目は、音楽による人材育成と音楽文化の継承、浸透についてであります。

古関氏の名を冠した作曲や編曲等のコンクールを創設し、市内外の音楽家に幅広く参加していただくことで、本市ゆかりの音楽家として成功するきっかけをつくり、人材の育成につなげていくべきであります。

このコンクールの開催により古関氏の功績を継承していくとともに、10年、20年と継続することで市内外に認知され、古関裕而のまち福島の象徴的な事業となり得るものと考えます。

コンクール参加者がその後国内外で活躍することで、コンクールでの活躍が夢や目標となり、ひいては音楽を通じた人材育成につながります。

また、古関氏の功績や古関氏の楽曲を若い世代に継承していくことは、日本を代表する偉大な作曲家が本市から生まれたことに対し、本市への誇りや愛着、将来への希望が生まれることから、継承の機会を増やし、継続していくべきであります。

子供たちに古関氏の功績や音楽を継承する取組としては、既存の鼓笛パレードや合唱コンクールなどでの古関氏の楽曲の活用や、古関氏の楽曲をジャズやポップスなど様々なジャンルに編曲し、一堂に会する音楽フェスティバルを継続的に開催することで少しずつ古関氏の楽曲が若い世代に浸透し、継承されていくことにつながると考えます。

音楽によるまちづくりの浸透には、継続的な取組が必要であります。短期的な施策だけではなく、音楽文化の振興を図る長期的なビジョンを持ち、まちづくりの方向性を示すべきであります。

以上3点の提言をいたしました。最後に調査にあたりご協力いただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。

エール放送により、古関氏と本市に対する関心は一気に高まりました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、本市に多くの方が訪れ、にぎわいが生まれております。

この盛り上がりを一過性のもので終わらせることなく、古関裕而のまち福島をこれからも市内外へアピールすることが重要であります。

古関裕而氏を生かしたまちづくりにより、本市が50年、100年先まで魅力にあふれ、誇りと愛着を持って住み続けたいと思われるまちとなるよう祈念いたしまして、古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査の報告といたします。

以上でございます。

(二階堂武文委員長) ありがとうございます。

それでは、ご意見をお伺いしたいと思います。

(石山波恵委員) 2枚目のところなのですけれども、古関裕而メロディーバスの運行も始まりましたというふうな形になっているのですけれども、本来10月からスタートのはずが9月に前倒しになったとなっているのですけれども、この発表とバスが始まったときのタイミング的には大丈夫なのでしょうか。

(書記) こちらの部分なのですけれども、当局のほうに確認し、入れた部分になります。9月の上旬に運行開始が予定されておりまして、こちらの発表が9月議会の最終日を予定しておりますので、そのときには既に運行しておりますので。

(石山波恵委員) 4ページなのですけれども、待ち時間の活用ということで、一体となり、そのスペースをとということで、この前の緊急会議で、バンブーのところをやるということが、既にもう出ている部分なのですけれども、図るべきですとなっているのですけれども、ここはもう既になっているということで、この表現でも大丈夫なのでしょうか。

(二階堂武文委員長) そうですね。この部分がこれから先本当に、半月とか一月後の状況もどんどんやっぱり変わっていくと思います。提言内容が具体的に施策になっていくという可能性はあります。それで、ではそういった部分を削るとか、どうしたらいいのかというのがやっぱり正副間の議論の一つになりまして、それで最終的には、この間ここで議論されてきたことを委員長報告にやはり盛り込むと。盛り込んでも違和感のないように、多少ぼかすところはぼかしながら、皆様からいただいた提言内容は間違いのないような形で取り込んでいったほうがいいのではないかとということになりましたので、そのバンブーの件とか何かも含めて。

(石山波恵委員) 私たちが思っていたことがもう実現しているということですよ。既に。その部分のところでこんな表現で提言としてということで。

(二階堂武文委員長) そうです。

(石山波恵委員) はい、分かりました。

(川又康彦委員) 関連してなのですけれども、4ページの13から16の部分、これは今石山委員おっしゃったとおり、委員長、副委員長のほうでもいろいろと議論していただいて、こういった内容になっているかと思うのですけれども、ただ実際にもう動いている部分で、8月の1日からあそこにはユニットハウスという形でもう入っている部分もありますので、既に何らかの部分はやっていますが、より一層何かを強化を図るとか、何らかの文言の修正みたいなものは行っていったほうが、今委員長が

おっしゃったこの場での我々の議論を踏まえて市当局もやっている部分あるわけですから、そこについては2つ重ねる、ちょっと今具体的にこういう文言いいのではないですかという代替案は出てこないのですけれども、その部分は石山委員もおっしゃったとおり必要があるのではないかと思いますので、ここについてはもう少し市当局の現状も踏まえてより一層強化を図るべきというような方向にこの4行を、あと1行か2行何か足すか、少し変えるかでやったほうがいいのではないかなと私自身も思います。

ほかは非常にすばらしい内容になっていて、直すところがなかなか見当たらないぐらいの感じなので。

(二階堂武文委員長) ありがとうございます。では、今の件はちょっと預からせていただいて。

(小松良行委員) ちょっと気になるところだけいいですか。細かいところなのです。3ページ、4行目か、当委員会としては、古関氏や古関氏の楽曲をきっかけにということなのですからけれども、いわゆる古関裕而さんというまず人物ということと楽曲ということを言いたいのだと思うのですが、2つ並べるとちょっとくどいかなと。

(二階堂武文委員長) 古関氏の人物像や楽曲とか。

(石山波恵委員) 確かに。ダブル古関になっているか。

(二階堂武文委員長) そうですね。おっしゃるとおりです。

(小松良行委員) ここのところがくどいかなと思ったところと、あとは5ページのほうの11行もそうなのですが、コンクール参加者がその後国内外で活躍することでコンクールでの活躍が夢や、これも何とかならないのかなと思ったところでした。

(小松良行委員) 参加者がその後国内外で活躍することでというのでもう完結しているような気がするのだが。ここが読んでいてちょっと違和感が。

(二階堂武文委員長) これは、コンクールの参加者のその次の世代ということなのです。だから、次世代。コンクールでの活躍が次の世代の夢や目標となりみたいな。では、ここもちょっと通りよくなるように検討させていただきます。

(小松良行委員) 別にこれでもいいのですけれども。本当にきっちりまとめておられて、感心、そして感謝申し上げたいと思いますし、本当にあまり目立って直すようなところはないような感じがします。

(川又康彦) 次世代にとってとかが入ればいいのですね。

(小松良行委員) そういうふうにちょっと。次世代にとってとか。

(二階堂武文委員長) そうですね。ありがとうございます。

(小松良行委員) この間に入ってくるとちょっと分かりやすいかなと。

(二階堂武文委員長) いかがですか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、今頂戴しました石山委員、川又委員、小松委員からの件も踏まえて、正副委員長のほうで修正案をつくりまして、次回の8月19日の委員会で確認してまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、そのように進めさせていただきます。

なお、今後のスケジュールですが、8月19日に確認いただく素案に問題がなければ、それを各会派にお持ち帰りいただき、8月26日に会派の持ち帰り結果の確認を行う予定となっておりますので、よろしくをお願いします。

最後に、その他に移ります。

委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、今回は8月19日となります。以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午前10時18分

散 会

経済民生常任委員長 二階堂 武文